

キャベツ（秋播き春穫り）

栽培暦

月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
5月穫り		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月穫り		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

図中「6月穫り」の、は、本ページ品種の欄の2、3を参照。

栽培の特徴とポイント

- 1 定植後、越冬時に株が大きすぎると春に結球せず抽だいするため、適期播種に心がけ早まきしない。
- 2 この作型は、越冬となるため、株の冬期間の枯死、消雪後の肥大の良し悪し・抽だいが収量の確保に重要なポイントとなるため、消雪直後から肥効を持続させる。
- 3 越冬となるため、雪解け水が滞水しないよう排水対策を徹底すること。
- 4 定植後、生育期間の半分以上が冬期間であることから、害虫の被害が極めて少ない(他の作型に比べ薬剤散布回数が少ない)。

品 種

- 1 5月穫り（播種：9月25日～9月30日）
 秋蒔極早生732号：秋まき極早生種として強い不抽だい性を持ち、結球性が安定している。密植適性（石井育種場）が高く、生育、結球ともよく揃う。明るい鮮緑色で、形状の良い扁円球になる。葉質は柔らかい。
 春ひかり7号：低温結球性・早熟性に優れる。球は扁円でよく締まり、1.1kg程度に太る。（タキイ種苗） 土壌適応性も広く、球姿・品質・食味は良好で市場性が良い。
- 2 6月穫り（は種：10月1日～10月5日）
 中早生2号：秋～春まきに優れる。球は扁円球でよく締まり、1.5kg程度に太る。裂球が（サカタのタネ）遅く収穫適期幅が広い。
- 3 6月穫り（は種：10月6日～10月10日）
 秋蒔中早生2号：越冬性に優れ、結球後の腐敗に強い。球は極濃緑な甲高球で1.6kg程度に太る。（タキイ種苗） 裂球が遅く収穫適期幅が広い。

育苗管理

- 1 播種方法
 128穴のセルトレイもしくはペーパーポットを使用し、1穴当り1粒まきとする。育苗床土は、無病の購入培土を用いる。
 必要苗箱数：畝幅120cm×株間35～40cm×2条植え = 4,000株/10a 33トレイ
- 2 作業手順
 - 1)セルトレイ(ペーパーポット)に床土を詰める。
 - 2)各セルに0.5～1cmの深さのくぼみをつけ、1粒ずつまく。
 - 3)播種後、くぼみがなくなる程度に覆土する(5mm程度の覆土)
 - 4)たっぷりかん水した後、床土が乾かないように新聞紙で覆う。
 - 5)播種後、出芽がみられれば新聞紙を取り除く。
 - 6)播種後約30日頃、本葉2.5～3枚展開頃、出来るだけ早めに定植する。
- 3 追肥
 葉色を見て適宜液肥で追肥する。

本ば管理

1 耕起および畝立て

基肥施用後、耕転し、畝幅 120 cm・畝高 25 cm 以上の高畝とする。天候不順な時期となるため、好天が続く、ほ場条件が良いときに耕起・畝立てを行う。

2 施肥

基肥の散布は耕起当日とする。越冬率を高めるため、基肥はリン酸肥料を多めにし、チッソ肥料は追肥中心とする。

施肥例 (kg / 10a)

肥料名	総量	基肥	追肥				成分量		
							N	P	K
完熟堆肥	2000	2000							
苦土石灰	120	120							
過石	60	60					10.2		
そさい3号	120	40			40	40	18.0	18.0	
硫安	70		30	40			14.7		
							32.7	28.2	
								18.0	

3 定植

株間 35 ~ 40cm の 2 条定植とする。定植は、風の強い日を避け、極端な小苗や病害虫苗を除き、苗質を揃え速やかに定植する。その際、根鉢と土が密着するよう手で土を軽く押さえてやると、活着が促される。11 月中旬以降の定植は、越冬率が悪くなるので、適期に行う。

4 追肥

追肥は 1 回目：定植 7 日後、2 回目：春の融雪直後 (2 月下旬 ~ 3 月上旬)、3 回目：2 回目の追肥の 2 ~ 3 週間後、4 回目：4 月中旬頃；極早生、早生種は結球始期を目安に適期に行うこと。また、石灰欠乏による芯腐れ症状の発生予防のため、越冬後には、カルクロン 200 倍またはカルプラス 500 倍液を散布すること。

5 収穫

しまり具合を見て結球したものから順次収穫する。取り遅れると裂球しやすいので注意する。

6 調製

外葉を 1 枚付け、出荷規格に基づいて選別箱詰する。

病害虫防除

根こぶ病：この病害は一旦発生してしまうと防除が困難で、発病を防ぐために発生しないような環境づくりが重要である。連作を避ける、石灰の投入により土壌 pH を上げる、排水を良くする、アブラナ科雑草の除草、抵抗性品種の利用。被害株は直ちにほ場外へ持ち出し焼却する。

菌核病：病原菌の生育適温は 20 前後であるため、この作型では、収穫期近くに発生が見られる。そのため、薬剤防除の他、連作を避ける、被害株を早急にほ場外へ持ち出し廃棄する等の耕種的防除を徹底する。

黒腐病：生育中全期間を通じて発生する。病原菌は乾燥に極めて弱いので、排水対策を徹底する。

アオムシ：多発してしまうと薬剤の防除効果が薄れるため、初発時に徹底的に防除する。また、ローテーション防除を心がけ、ほ場周辺にモンシロチョウが飛来している時は防除すること。

コナガ：冬季を除き、ほぼ周年発生し、本作型でも春先から発生する。多発すると防除が困難になるので、発生初期からの防除を徹底する。

販売のポイント

市場の価格変動が著しいことから、契約的に販売できる販路を確保する。出荷規格を厳守する。